

第10回

宝塚混声合唱団音楽会

1998年5月16日(土)

ザ・カレッジ・オペラハウス

後援： 宝塚市 宝塚市教育委員会
宝塚市文化振興財団 宝塚合唱連盟

主催 宝塚混声合唱団

プログラム

口短調ミサ曲

ヨハン・セバスチャン・バッハ作曲

第1部 Kyrie

1. Kyrie eleison (合唱) 2. Christe eleison (二重唱) 3. Kyrie eleison (合唱)

第2部 Gloria

4. Gloria in excelsis (合唱)
Et in terra pax (合唱)
5. Laudamus te (アリア)
6. Gratias agimus tibi (合唱)
7. Domine Deus (二重唱)
8. Qui tollis peccata mundi (合唱)
9. Qui sedes ad dextram Patris (アリア)
10. Quoniam tu solus sanctus (アリア)
11. Cum Sancto Spiritu (合唱)

休憩

第3部 Symbolum Nicenum (Credo)

12. Credo in unum Deum (合唱) 16. Crucifixus (合唱)
13. Patrem omnipotentem (合唱) 17. Et resurrexit (合唱)
14. Et in unum Dominum (二重唱) 18. Et in Spiritum sanctum Dominum (アリア)
Variante hierzu 19. Confiteor (合唱)
15. Et incarnatus est (合唱) 20. Et expecto (合唱)

第4部 Sanctus

21. Sanctus (合唱)

第5部 Osanna, Benedictus, Agnus Dei et Dona nobis pacem

22. Osanna in excelsis (合唱) 24. Agnus Dei (アリア)
23. Benedictus (アリア) 25. Dona nobis pacem (合唱)

(以下の解説では通例に従い22、23曲が第4部にうつしてある)

ソプラノ	津山和代
アルト	福島紀子
テノール	畑儀文
バス	井上敏典
指揮	大森地塩
合唱	宝塚混声合唱団

オーケストラ 大阪シンフォニカー

曲と歌詞

バッハ (Johann Sebastian Bach 1685-1750) の作品は母国のドイツ音楽の伝統に深く根ざしながら、イタリアとフランスの様式をも吸収し、深い精神内容や広汎で精密な作曲技術など西洋音楽文化の一大遺産として後世の作曲家たちに計り知れない影響を与えた。

最晩年の完成で彼の音楽の総決算とも言われるこの口短調ミサ曲は、作曲の様式や技法が集大成され、カンタータを始めグレゴリオ聖歌、舞曲、カノンなどの旋律や様式も用いられて、全体は大聖堂の壮大な構築の美しさにも例えられよう。

それはヨハネ・マタイ受難曲、クリスマス・オラトリオと共にバッハの四大宗教作品と言われる。曲全体の初演は彼は聴くことなく、1812年に行われた。

規模の大きさからしてもこの曲は礼拝よりは演奏会向けとされる。オーケストラは奥深く色彩豊かな表現でソロ・合唱と共に歌い、あるいは独自に語って曲の構成や効果を深く豊かにしている。各部のあらまきは

1. Kyrie (憐れみの賛歌、ギリシア語)

古くから繰り返し唱えられていた嘆願の祈りが歌詞になっている。

冒頭の強く感動的な訴えと次第に高まるひたすらな祈り (フーガ) の第1曲に対し、希望の感じられる美しいソプラノ二重唱 (第2曲)、そして希望は確信に変わるかのような落ち着いた合唱 (第3曲) となる。

2. Gloria (栄光の賛歌、以下ラテン語)

キリスト降誕の夜の天使たちの明るい喜びの合唱 (ルカによる福音書2章) (第4曲) から第7曲までは神の栄光の賛美と礼拝が続く。装飾音で優美なソプラノ・ソロの第5曲、古風な導入部で始まる荘重な第6曲、ソプラノ・テナーが美しく織りなす二重唱 (第7曲) など喜びが基調にある。

続いて祈りの第8曲は真摯で憂いを湛え、アルト・ソロの清らかな嘆願 (第9曲) の後、バス・ソロはキリストの唯一最高の地位をたたえ (第10曲)、すぐ続いて最後 (第11曲) は一転輝かしく澁刺とした賛美の合唱で終わる。

3. Credo (信仰宣言)

4世紀に固まったこの式文はキリスト教の教義の基本を簡潔に述べている。先ず第12曲 (フーガ) ・13曲が唯一・全能・創造者の神を高らかに歌い、第14曲は神 (父) とキリスト (子) の一体性を示してソプラノ・アルトがカノン風の二重唱で結びつく。

第15曲の簡素で抑制されたハーモニーは処女受胎への畏敬を表わし、十字架を扱った第16曲では静かな深い悲しみが心に迫る。(舞曲形式)

そして突然、悲しみはきらめく喜びの躍動に変わる。主の復活・昇天・再臨である。(第17曲) 次いでバス・ソロは父・子・聖霊の三位一体を朗々と歌う。(第18曲)

最後の第19曲・20曲は罪の赦しの洗礼を認めて明るく始まり、死者の復活と来世の生命を待ち望みつつ神秘的なアダージョは一挙に壮大な輝く喜び (アレグロ) へと変わり、勝利のアーメンでCredoを終わる。

4. Sanctus (感謝の賛歌、旧約イザヤ書6章・マルコによる福音書11章)

主の力と栄光をたたえて壮麗な第21曲にダイナミックな複合唱8声部 (第22曲) が続き、テナー・ソロは優美に祝福を願う。(第23曲)

5. Agnus Dei (平和の賛歌)

ミサは終りに近づき、我らを憐れみたまえ、とアルト・ソロ (第24曲) は心より訴え、情感が伝わってくる。終曲の合唱 (第25曲) は切に平安を祈り、神への信頼と確信を思わせる確固とした構成と荘厳な美しさが感動を呼び起こしてこの口短調ミサ曲は終わる。

口短調ミサ曲

[第1部 キリエ]

第一曲 合唱

Kyrie eleison

第二曲 二重唱

Christe eleison

第三曲 合唱

Kyrie eleison.

[第2部 グロリア]

第四曲 合唱

Gloria in excelsis Deo.

Et in terra pax hominibus bonae voluntatis.

第五曲 アリア

Laudamus te, benedicimus te, adoramus te,
glorificamus te,

第六曲 合唱

Gratias agimus tibi propter magnam gloriam tuam

第七曲 二重唱

Domine Deus, Rex coelestis, Deus Pater
omnipotens

Domine Fili unigenite Jesus Christe altissime.

Domine Deus, Agnus Dei, Filius Patris.

第八曲 合唱

Qui tollis peccata mundi, miserere nobis.

Qui tollis peccata mundi, suscipe deprecationem
nostram.

第九曲 アリア

Qui sedes ad dextram Patris, miserere nobis.

第十曲 アリア

Quoniam tu solus sanctus, tu solus Dominus,
tu solus Altissimus, Jesu Christe.

第十一曲 合唱

Cum Sancto Spiritu in gloria Dei Patris Amen.

[第3部 クレド]

第十二曲 合唱

Credo in unum Deum

第十三曲 合唱

Patrem omnipotentem, factorem coeli et terrae
visibilium omnium et invisibilium.

第十四曲 二重唱

Et in unum Dominum Jesu Christum, Filium
Dei unigenitum.

Et ex Patre natum ante omnia saecula.

Deum de Deo, lumen de lumine Deum verum de

ヨハン・セバスチャン・バッハ作曲

主よ、あわれみたまえ。

キリストよ、あわれみたまえ。

主よ、あわれみたまえ。

天においては天主に栄光あれ。

地においては善意の人に平安あれ。

我ら主をたたえ、主をあがめ、
主を礼拝し、主を賛美したてまつる。

主の栄光の大なるがために、主に感謝したてまつる。

主なる神、天の王、全能の神なる父、

ひとり子なる主、いとたかきイエズス・キリスト。

主なる神、神の子羊、聖父の御子。

世の罪を除きたもう主よ、我らをあわれみたまえ。

世の罪を除きたもう主よ、我らが祈りをききいれ
たまえ。

聖父の右に座したもう主よ、我らをあわれみたまえ。

そは唯一の聖、唯一の主、唯一の最高者、
イエズス・キリスト。

聖霊とともに、神なる聖父の栄光にあり。アーメン。

われは唯一の神を信ず。

全能の父、天地とすべて見えるもの・見えないもの
の創造者。

また唯一の主、イエズス・キリストを信ず。天主の
ひとり子にして

すべての世の前に父より生まれ

神よりの神、光よりの光、真の神よりの真の神。

Deo vero.

Genitum, non factum, consubstantiali Patri,
per quem omnia facta sunt.

Qui propter nos homines et propter nostrum
salutem descendit de coelis.

第十五曲 合唱

Et incarnatus est de Spiritu Sancto ex Maria
Virgine, et homo factus est.

第十六曲 合唱

Crucifixus etiam pro nobis sub Pontio Pilato
passus et sepultus est.

第十七曲 合唱

Et resurrexit tertia die secundum Scripturas.
Et ascendit in caelum sedet ad dextram Patris.
Et iterum venturus est cum gloria, iudicare vivos
et mortuos.

Cujus regni non erit finis.

第十八曲 アリア

Et in Spiritum Sanctum, Dominum,
et vivificantem, qui ex Patre Filioque procedit.
Qui cum Patre et Filio simul adoratur
et conglorificatur qui locutus est per Prophetas
Et unam, sanctam, catholicam, et apostolicam,
Ecclesiam.

第十九・二十曲 合唱

Confiteor unum baptisma in remissionem
peccatorum.

Et expecto resurrectionem mortuorum, et vitam
venturi saeculi, Amen.

[第四部 サンクトゥス]

第二十一曲 合唱

Sanctus, sanctus, sanctus, Dominus Deus
Sabaoth.

Pleni sunt coeli et terra gloria ejus.

第二十二曲 合唱

Osanna in excelsis.

第二十三曲 アリア

Benedictus qui venit in nomine Domini.

[第五部 アニュス・デイ]

第二十四曲 アリア

Agnus Dei, qui tollis peccata mundi miserere nobis. 世の罪をのぞく神の子羊、我らをあわれみたまえ。

第二十五曲 合唱

Dona nobis pacem.

造られずして生まれ、聖父と一体にして、万物これによりて造られたり。

人なる我らのために、また我らを救わんがために、天より降り。

聖霊によりて、処女マリアより人体をうけ人となられた。

我らのためにポンツィオ・ピラトの時、十字架に釘づけられ、苦しみて、葬られたまひ。

そして三日目に聖書にあるように、復活したまひ。天に昇って聖父の右に座られた。

そして生きた人と死んだ人とを審判するため、栄光を帯びて、再来されているのだ。

その国には終りが無い。

また主にして生命の主たる聖霊を信ず、すなわち聖父聖子より出で、

聖父および聖子とともに拝み尊ばれたまひ、予言者をもって語りたまえり。

また一体であり、神聖で、公教の使徒伝来の教会を信ず。

罪を許されるために、一つの洗礼が有ると信じよう。

そして死者の復活と来世の生命を待ちましょう。アーメン。

聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、万軍の神なる主。

彼の栄光は天地に満つ。

いと高きところにホザナ。(万歳)

主の御名によりて来る者、祝せられたまえ。

我らに平和をあたえたまえ。

バッハとわたし

“口短調ミサ曲”は、バッハがその死の2年前に宗教音楽家としての活動の総決算として完成させたもので、彼の音楽の全ての要素を超絶的な高みで結合した最高の円熟作と説明されている。その曲を我々が歌えると言う幸せ。然し、練習を重ねれば重ねるほど、難しさに苦しむ。そして奥の深さに溜息をつく。この様に由緒有る曲を私が歌わせて貰って、大バッハへの冒涇にならないか？と怯みながらも練習を続けている。少しでもバッハの音楽に近づきたいと念じつつ。

T. 安藤 見

BACHはやはり音楽の基礎だと思えます。テンポの正確さ、声の出し方などとても力がついたのでないでしょうか。h-mollをするにあたって団の皆様の色々な情報(曲の解釈、バッハについての研究など)を頂きました。ミサの時の読み上げる言葉には4種類あり、そのうちの1つがNicenumであるということを知りました。実際に歌いだしてからその構成の大きさに圧倒され、又、曲の生まじめさ、あっさりした中にこもる憂いの感じ、喜びに飛びはねる感じなどが大好きで大喜びで歌いました。

S. 上田 美智子

私が、バッハに初めて接したのは、40年程前、グリークラブ(男声合唱団)活動と共に、ギターの練習を思い立った時であった。入門したギター教室の教師より十八番のバッハのプレリュード(無伴奏チェロ組曲第一番プレリュード ト長調)の模範演奏をいただいた。非常に興味を引かれ、現在までギターを続けてきたキッカケとなった。後日、教室の発表会のトリでバッハのシャコンヌ(無伴奏バイオリンのためのバルティータ第二番ニ短調)が先輩生徒より演奏された。15~6分におよぶこの演奏には、驚嘆するばかりで、岐阜よりガリ刷りの楽譜を手に入れ、練習を始めたが全く歯がたたなかった。その後バッハはせいぜいガボット・メヌエット等小品の演奏に限られてしまった。再び、この期にバッハ作品のギター編曲、リュート作品等楽譜を眺めながら、練習を始めるか思案している所である。

T. 植田 英幸

「バッハ」この響きにはベートーベンやモーツァルト、ブラームスとは違う何か根源的な感じがします。今までその為か、CDを買う時には少し遠慮していました。たまたま買って本棚のコヤシになっていました。

今回バッハの口短調ミサを演奏すると聞いて、歌えるだろうかと心配しました。何しろ聴くだけで大変な曲なのに。練習を開始するとやはり難曲でした。しかし全体の音採りの終わった頃から、その魅力のとりこになりました。何か生命の根源に働きかけるようなリズム、ハーモニー。何しろ歌っていて文句なしに心地良いのです。今まで難しく考え過ぎていたようです。皆さんにも心地良く聴いていただきたいと思えます。

T. 草野 正弘

未曾有の被害をもたらしたあの震災からはや三年が過ぎ、時の流れと共に当時の瓦礫と化した街の風景は、復興の名のもとにかなり回復してきました。あの当時避難所の片隅に放心したように座っていた私は、時間が経つにつれ無性にレクイエムが聴きたくなりました。たまたま隣り合わせたとてもクラシックがお好きな老婦人と一緒にようやく聴くことが出来たのはそれから数日後、フォーレの「レクイエム」でした。

そして、昨年1月17日更地となった場所のあちらこちらで、お花や故人の好物だったのでしようお菓子や飲物が供えられている光景に出会いました。その時、次第に薄れてきてはいるものの決して忘れられない失われた尊い命や失ったものへのいとおしさと無念さが私の胸にこみあげてきました。

練習に復帰した私には歌っている時がとても大切な時間に思えます。再び歌える喜びをかみしめながら、さまざまな思いを心にこめて、口短調ミサを歌いたいと思えます。

S. 瀬戸口 陽子

僕にとって「口短調」は特別に興味をそそられる曲である。なぜだろうか？学生時代に「マタイ」と「ヨハネ」を歌ったが、今回の「口短調」は特にやりがいのある曲といえる。「マタイ」や「ヨハネ」の様に曲の筋書きを勉強しなくてもよく、曲だけに集中できるのも一つの理由といえる。

とにかく、「口短調」は難しい曲でもあるが、頑張っていこうと思う。

B. 築山 直弘

私がこの曲を知ったのは昨年の秋のことでした。コーラスを始めて3年目の私が、「次の演奏会は口短調ミサ」と聞いて、『ほほー、バッハはいいらしいから楽しみだなー』などと、のんびり構えておりました。バッハがどのように良くて、どのように難かしいかをまだ知らない、嵐の前の静けさでした。

そして嵐はすぐにやってきたのです。CDを聴くと、確かに美しい素晴らしい曲でした。でも楽譜の通りに歌えないのはなぜなのか？どの曲も早すぎるか遅すぎるかで、呼吸ができないのはなぜなのか？歌っていると目がつりあがるのはなぜなのか？さまざまな難関が待ち受けておりました。それらの難関を少しずつクリアして、ようやく美しい演奏ができそうな予感がしてまいりました。今日はより美しいハーモニーを目指して、精一杯歌わせていただきます。

A. 中屋敷 浩子

ごあいさつ

宝塚混声合唱団第10回音楽会にお越しいただきまして、まことにありがとうございます。

今回は、数あるミサ曲のなかでも屈指の名曲と言われるバッハの口短調ミサ曲に取り組みました。この演奏のため、音楽界で広く活躍される著名な声楽家の方々に独唱をお願いすることが出来ました。美しいアリアや二重唱を心ゆくまでお楽しみください。今回はまた、団主催の音楽会としては創立以来初めて、オーケストラに共演をお願いいたします。アマチュア合唱団の願いを快く受け入れていただいた大阪シンフォニカーとご関係の皆様、厚く御礼申し上げます。合唱団も、かつてないほど密度の高い練習を重ねて今晚のステージに臨んでおります。この名曲の素晴らしさを味わっていただけるような演奏が出来ればと心より願っております。

さて、口短調ミサ曲、冒頭の衝撃的なキリエは、存在の不安をただ祈ることで鎮めようとする人の想いを訴えかけるかのようであります。思えば、3年前の大震災の日、私たちは私たちの存在のはかなさを骨の髄まで思い知らされたのです。明るく寒い朝、くすぶり続ける焼け跡に悄然と佇む人々の頭上に、この痛切なキリエは鳴っていたでしょう。マザーテレサは、あの時、罹災地の人々に神のお恵みがありますように、と祈りを捧げてくれました。インドの地で、見捨てられ死を待つばかりの人々の終りが安らかであるようお願い続けたマザーテレサにとって、罹災者の大半が非キリスト教者であることなど念頭に無かったでしょう。彼女にとって、震災で悲嘆にくれている人々は先ずもって慰められるべき人だったのでしょうか。マザーテレサの祈りは私たちの心にまっすぐに入って来て共鳴します。口短調ミサ曲に込められたバッハの祈りも、同じように私たちの心の中で鳴るのでしょうか。

平成10年5月

宝塚混声合唱団